

さまざまに姿を変えるモノから
生活の知恵や日本とのつながりを発見

MoNo 変身図鑑

第20回 アカシア

「ミモザ」の別名を持ち、日本では観賞用の花として人気が高いアカシア。日常生活とのかかわりは薄いように思われがちだが意外や意外、身の回りにはアカシア由来のさまざまなモノがあふれている。

生活に欠かせないアラビアゴム

アカシアはもともとオーストラリアやアフリカ、南北アメリカで自生していたマメ科の樹木。その種類は1000を超えるといわれ、樹木に含まれる有用成分は私たちの生活と深く結びついている。

その一つが、アカシア・セネガルから採取されるアラビアゴムと呼ばれる樹液だ。多糖類を主成分としたアラビアゴムは、低粘性で水によく溶ける性質を持つ。食品・化粧品、乳剤や増粘剤、医薬品の安定剤やマイクロカプセル化、水彩絵の具のバインダーや切手のりとして、広く利用されている。アラビアゴムの最大の産地は、世界の需要の8割以上をまかなうというスーダン。アラビアゴムは現地の人々にとって貴重な現金収入源となっている。

高さ7~8メートル、成長が早くトゲやハリを持っている。オーストラリアやアフリカ、ブラジルでは製革業用に大農園で栽培されている

日本はアメリカと並ぶ世界屈指のアラビアゴムの消費国なんだよ。

加工食品

アラビアゴムは成分を安定させる乳化剤や増粘安定剤として、キャンデーやチョコレート、ソフトドリンクなどの食品に広く用いられている

切手

どこの家庭にもある切手ののりにもアラビアゴムが使われている

画材

アラビアゴムは色素を定着させる水彩絵の具のバインダーとして古くから使われている。また絵筆のまとまりをよくする固着剤にもなる

コスメ

アカシアの花から抽出されたエッセンシャルオイルは、香水やせっけん、化粧品の香料にも

皮なめし剤

靴やベルト、バッグなどの皮革製品の皮なめしには、アカシアから抽出されたタンニンを原料としたなめし剤が使われている

医薬品

薬剤のコーティングや成分の分離を防ぐ安定剤、マイクロカプセル化にアラビアゴムが用いられている

接着剤

タンニンはチップボードや合板、パネル用の接着剤の原料としても注目されている。耐水溶性なので、ダンボールなど防水包装材の製造にも効果がある

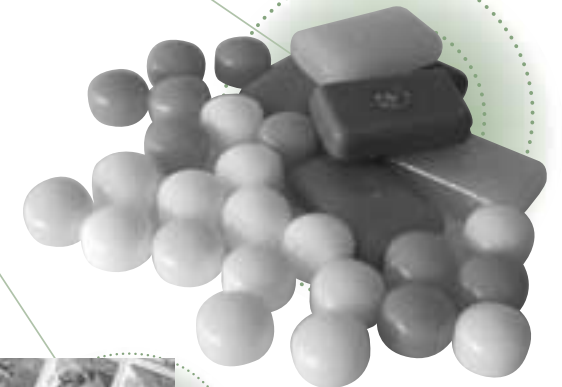
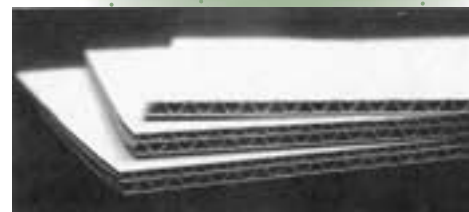
樹皮に含まれるタンニンも大活躍
アカシアのもう一つの有用成分はタンニン。タンニンはもともと皮をなめすために用いられてきた成分で、アカシアの樹皮から抽出される。現在はブラック・ワトルと呼ばれる南アフリカ産のアカシアの樹皮から抽出されたタンニンが主に用いられている。

このタンニンはまた、合板やパネル、ファイバーボード、ダンボール、さらに建築材料など、耐水溶性の接着剤の原料としても使われている。ホルムアルデヒドによるシックハウス症候群が問題となる中、天然有機物の接着剤は、その用途を広げつつある。

一方、芳しい香りを放つアカシアの花もさまざまに利用されている。草木染めとして、また花から抽出されたエッセンシャルオイルは香水やせっけん、化粧品などの香料として使われている。



伐採直後のアカシアの樹皮からは良質のタンニン抽出物が得られる



アカシアで砂漠緑化に挑む 緑のサヘル

アフリカ・サハラ砂漠のチャド、ブルキナファソ両国で、育苗・植林支援、農業支援などを続けるNGO「緑のサヘル」が、活動の一環として進めているのが、アカシア・セネガルの植樹。かつて綿花栽培が行われていたチャドのバイリ村では、土地は疲弊し放棄されていた。この荒地にアカシア・セネガルを植栽することで、防風・防砂効果と土地の肥沃化、またアラビアゴムによる現金収入が期待されている。さらに、現地スタッフの育苗技術習得にも努めるなど、地域住民の自立に向けた支援が続いている。



緑のサヘル
<http://www.jca.apc.org/sahel/index.html>

取材協力 = 澤富商事株式会社